



Akajima Marine Science Laboratory 阿嘉島臨海研究所

〒901-3311 沖縄県島尻郡座間味村字阿嘉179

ホームページもご覧下さい。http://www.amsl.or.jp

TEL:098-987-2304 FAX:098-987-2875 E-mail:amsl@oki-zamami.jp



## ●サンゴの手のひらの中で

### ーサンゴヤドリガニー

9月になり、サンゴの産卵もうないかな、と思っていたら、キクメイシやコモンサンゴの仲間、今月も卵を産みました。5、6月に産むミドリイシのように、たくさんの群体が一度に産むわけではありませんが、それでも一晩で十数群体が産む日もありましたから、そんなに馬鹿にしたものでもありません。サンゴには、産卵する種類以外に幼生を出してふえるものもあります。その代表はハナヤサイサンゴの仲間ですが、海で見えても時間帯が違っていたりして、幼生を出す場面を見ることはなかなかありません。けれど、それらのサンゴをじっと見ていると時々変な形の枝に気づきます。今回は、このハナヤサイサンゴの変な形の枝についてお話ししましょう。

上の写真はトゲサンゴです。ハナヤサイサンゴの仲間、よほど波あたりの強いところでなければ慶良間周辺のいろいろな所でふつうに見ることができます。写真の中央に、ちょうど手のひらを合わ

せたような形の枝があります。トゲサンゴの枝は細くとがるのが普通で、こんな形ではありません。たまたま変な具合に枝が伸びてしまったのかと思って、ほかの群体を探してみると、全部ではありませんが、同じような形の枝をもつものがけっこうたくさんあります。いったいこれは何なのでしょう。サンゴの病気でしょうか？

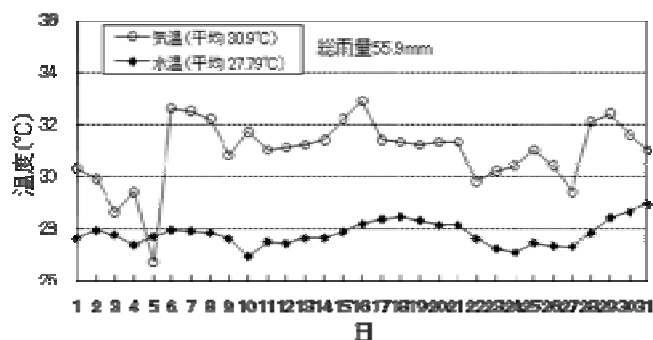
実はこれは、「カニこぶ」と呼ばれるもので、その名前のおおりに、カニが入っているこぶなのです。そして、誤解のないように言っておくと、たまたまそんな形をしたサンゴの枝にカニが住みこんだのではなく、カニがこのような手のひらを合わせたような枝へと‘サンゴの形を変える’のです。

このカニの名前は、サンゴヤドリガニーといい、特別にサンゴの中でだけ暮らすカニです(写真1)。このカニこぶのでき方について、弘博士という日本人がパラオで行った研究をみると、まずカニがサンゴの枝に付くと、そこから2又に分かれるようになり、次にその2つの枝からそれぞれ数本の小枝が分かれて手のひらを合わせたような形になります。その後、さらに成長して入口(指先の部分)がおたがいにくっついて、いくつか

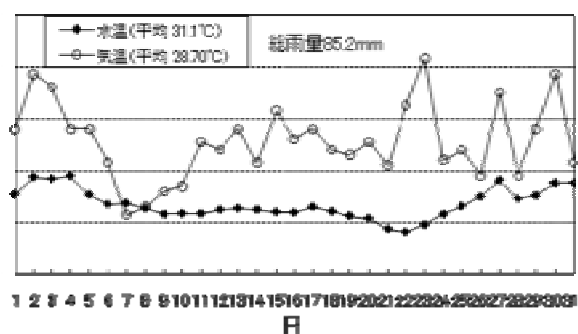


## 定点観測

2009年7月



2009年8月



の小さな穴が残るだけの‘こぶ’になるそうです。たしかに、海で観察してみると、でき始めからすっかり丸くなってしまったものまで、いろいろな段階のこぶを見ることができます。これを小さなカニがやるのですから、大したものです。どうしてこんなことができるのでしょうか。カニがいることで生じるささいな何か、たとえばカニの呼吸でおきる流れなどが、サンゴの形を変えるのではないかという説がありますが、本当はどうなのでしょうか？

カニこぶができるサンゴには、トゲサンゴのほかにもショウガサンゴやハナヤサイサンゴ、イボハダハナヤサイサンゴなどがあります。どれもハナヤサイサンゴ科の種類ですから、サンゴヤドリガニとこのグループのサンゴが特別な関係にあるのは間違いないのですが、それが「共生」かどうかは意見の分かれるところです。カニにとってはサンゴは安全な住みかなので得がありますが、サンゴに得があるかわからないからです。そこで、この関係は「寄生」だと考えられることも少なくありません。この点については、もっと詳しく調べなければなりません。マジャノハマには、トゲサンゴやショウガサンゴがたくさんいますから、調査の場所としては適しているかもしれません。

今回はハナヤサイサンゴに住むサンゴ

ヤドリガニを紹介しましたが、このカニの仲間には、キクメイシ、シコロサンゴ、クサビライシなどほかのサンゴに住む仲間もいます（こぶは作りませんが、サンゴに深い穴を作って住んでいます）。これまでも、どのサンゴにどのカニが住んでいるのか、いくつかの研究が報告されていますが、慶良間にはどういう組み合わせで、どんな種類が住んでいるのか、また、それらの組み合わせにきちんとした決まりがあるのなら、どうやってサンゴを区別しているのか、など興味はつきません。またいつかこのカニ達についてもお話したいと思います。

## ● 阿嘉島の海より

阿嘉小学校では今年の6月に産卵観察会をおこないましたが、その時に生まれたサンゴの成長を観察するために、5,6年生が研究所に来ました。観察したのは産卵観察会でも見たウスエダミドリイシの赤ちゃんです。一人ずつ顕微鏡で観察し、スケッチしました。生まれてから4カ月たった赤ちゃんサンゴはポリプも増え、直径は3mmほどに成長していました。これからも定期的に観察して、サンゴが成長していく様子を見てもらおうと思います。

